

## 旧制静岡高等学校関係資料の整理作業に関する経過 報告(2010年度)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2011-06-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 戸部, 健 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.14945/00005730">https://doi.org/10.14945/00005730</a>

# 旧制静岡高等学校関係資料の整理作業 に関する経過報告（2010年度）

戸部 健

## 1. はじめに

静岡大学人文学部には、旧制静岡高等学校および静岡大学文理学部・人文学部に関する資料が保存されている。これらの資料を整理・公開する目的で「大学アーカイヴズ構築に向けた初歩的整理」プロジェクトが、人文学部および生涯教育研究センターの有志教員により 2009 年に立ち上げられた。プロジェクトのこれまでの活動内容については、拙稿「旧制静岡高等学校関係資料の整理作業に関する経過報告」（『地域研究』創刊号、2010 年）にまとめているので、そちらを参照していただきたい。

今年度プロジェクトでは、①詳細な資料目録の作成に着手すること、②資料の展示を行うこと、③県外のアーカイヴズへ訪問すること、を主な目標とし、達成に向けて努力した。その具体的な動きについて以下で紹介する。

## 2. 2010 年度の活動

### （1）資料の整理

昨年度の段階で資料に関する簡単な目録は完成している。そのため今年度は、より詳細な目録の作成に着手する必要がある。ただ、昨年度末に、人文学部 A 棟 2 階の小部屋が資料保存用に新たにあってがわれたため、目録作成に先立って、まずは資料のうち静岡大学文理学部・人文学部関係のものを新しい部屋へ移動させることにした。この作業には、学生アルバイトにも参加してもらった。

その上で、文理学部・人文学部関係資料の詳細な目録づくりに取りかかった。これについても学生アルバイトたちの協力を得て半分程度まで目録化することができた。ただし、旧制静岡高等学校関係資料に対してはまったく手をつけることができなかった。次年度以降の課題となる。

### （2）資料の展示

昨年度に展示用ケースを 1 台購入し、人文学部棟玄関ロビーに設置した。今年度は、この展示ケースを利用して、旧制静岡高等学校に関する展示を開始した。各展示のテーマと内容は以下のとおりである。

#### ①「開校直後の旧制静岡高等学校」（写真 1）

展示期間：2010 年 9 月～2011 年 2 月

展示内容：旧制静岡高等学校開校関係資料（工事報告書、祝辞原稿、葉書）・校旗・校名の入ったプレート・校章・校歌楽譜・写真パネルなど

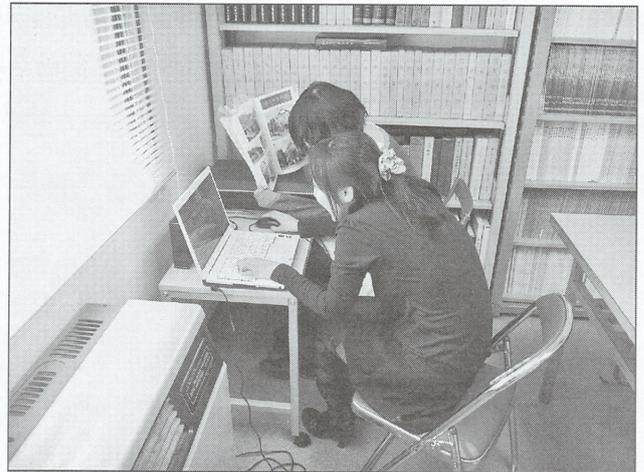
#### ②「十年目の旧制静岡高等学校」

展示期間：2011 年 2 月～

展示内容：旧制静岡高等学校十周年記念式典関係資料（祝辞原稿・絵葉書・式典準備に関する文書）など



(写真1) 展示の様子



(写真2) パネル用写真の加工作業

また、もともと大学会館に設置してあった旧制静岡高等学校校舎の模型を、大学会館の工事開始にともない人文学部で引き取るようになったため、それを展示ケースの横に置いた。これにより、展示の規模がいっそう拡大した。これらの展示を果たしてどのくらいの人が見てくれたかは、係員を配置していないため知る手立てがないが、玄関ロビーという、人文学部棟で最も人通りの多い場所に置いたことを考えれば、興味を持って鑑賞してくれた人もそれなりにいたのではなかろうか。また、学園祭やオープンキャンパスの際には、学外からの来校者にもアピールすることができたと考えている。

展示活動は、次年度以降も継続する。テーマとしては、「学生寮での生活」、「戦時中の旧制静岡高」、「旧制静岡高の廃校と人文学部への移行」などを現時点で予定している。パネル作成に必要な写真の撮影はすでに済んでいるため、陳列する資料の選定さえすれば、すぐにでも展示替えが可能な状態となっている。

なお、展示物の設置作業およびパネル用写真の撮影・加工作業には学生アルバイトにも参加してもらった(写真2)。

### (3) 県外のアーカイヴズへの訪問

昨年度は国文学研究資料館(東京都立川市)と学習院大学(東京都文京区)の2箇所を訪問したが、本年度は地方の国立大学での事例を見るため、2010年10月30~31日に湯之上と戸部が鹿児島大学総合研究博物館常設展示室と熊本大学五高記念館を訪れた。

鹿児島大学総合研究博物館常設展示室は、鹿児島大学郡元キャンパス内にある2階建ての建物であり、教育機器資料・考古標本・化石標本などを展示している。旧帝大系を除けば最も早く開設された大学博物館のひとつである。当館には常勤の係員が配備されていたため、展示の内容や館の運営方法などについて話をうかがうことができた。

熊本大学五高記念館は、旧制第五高等学校本館の建物を利用した大学博物館である。旧制高等学校の博物館としては、松本市にある旧制高等学校記念館と並び全国最大規模を誇る。展示品の量・質はさることながら、資料の見せ方・保存方法なども特異なものがあり、大いに参考になった。なお、当日は熊本大学の学園祭期間中であったため、高校生や父兄の姿も多く見られた。

以上の出張で得られた情報をプロジェクト内で共有化するため、戸部が報告資料を作成し、他のメンバーに送付した(当資料は本稿巻末に添付した)。

#### (4) ウェブサイトの立ち上げ



(写真3) ウェブサイト表紙

も出てきたため、予算の範囲内でそれらを購入した。今年度購入した主な備品および用途は以下のとおりである。

プロジェクトの活動内容や静岡資料の概要などについて紹介するために、2010年10月に、戸部が専用のウェブサイトを立て上げた(サイト名: 静岡大学人文学部大学アーカイブズプロジェクト<sup>1)</sup>)。現在、人文学部歴史文化コースのサイト<sup>2)</sup>にリンクを張っている。今後、適宜情報を更新して、内容の充実化を図りたい(写真3)。

#### (5) 物品の購入

今年度は、昨年度に買いもらった備品を中心に購入した。また、作業の過程で新たに必要なもの

- ①コピーライト(撮影台に装着して使用、撮影時のムラをなくすため)
- ②紙秩(資料を劣化から保護するためのもの)
- ③アーカイブズ関係書籍・雑誌(アーカイブズに関する最新の研究動向を知るため)

### 3. 来年度の課題

今年度の成果を踏まえて、来年度取り組むべきは以下の2点である。

#### ①詳細な目録の作成

なるべく早い時期に静岡大学文理学部・人文学部関係資料についての詳細な目録を完成させる。その上で旧制静岡高等学校関係資料の目録作成に着手する。旧制静岡高等学校関係資料は膨大なため、学生アルバイトの協力を得ながら効率的に作業を進めたい。ただ、それでも作業が完了するまで数年程度かかるものと考えている。

#### ②展示の入れ替え

来年度も、今年度同様展示活動に力を入れていきたい。上でも述べたとおり、今後展示する内容はすでに決まっているので、スケジュールなどをしっかり策定し、沈滞なく入れ替えができるように努める。また、今後の展示予定などについてもウェブサイト上で宣伝するようにする。

大学アーカイブズの整備は、上で言及した鹿児島大学や熊本大学のように本来専任の職員がそれを担当すべきと考えるが、本学では目下のところ教員が業務の合間をぬってそれに当たっているという状態である。そのため、作業の進捗はどうしても遅くなる。ただ、現状がにわかには変わらない以上、ゆっくりでも着実に前に進む以外に道はないだろう。来年度以降もできるところから1つずつこなしていきたい。

<sup>1</sup> <http://www.ipc.shizuoka.ac.jp/~jktobe/>

<sup>2</sup> <http://www.ipc.shizuoka.ac.jp/~jsreki/>

## (付録) 鹿児島大学・熊本大学調査報告資料

### ①鹿児島大学総合研究博物館常設展示室

住所：鹿児島市郡元 1-21-30

(鹿児島大学郡元キャンパス内)

開館時間：10:00～17:00

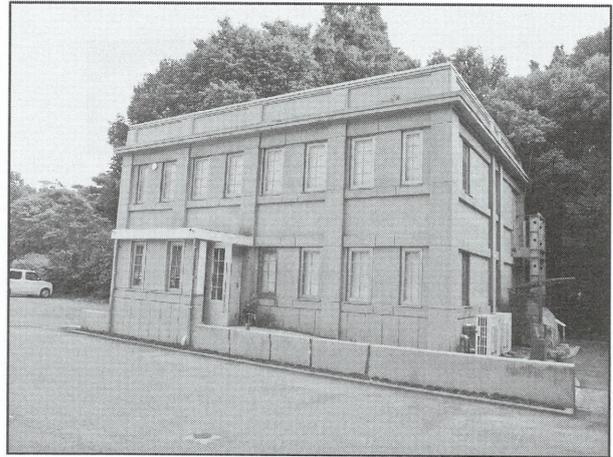
(入館は 16:30 まで)

休館日：毎週日・月曜日、祝日、年末年始

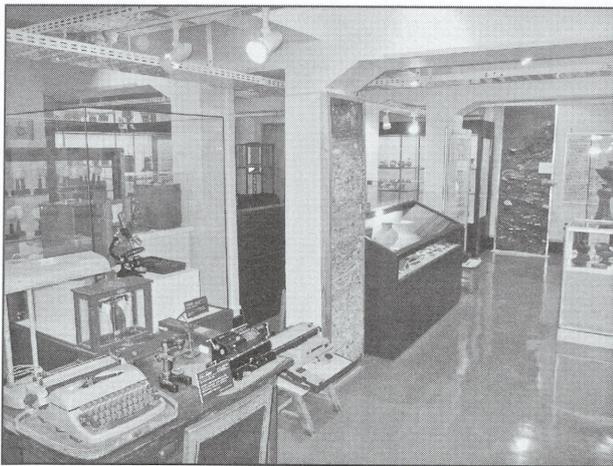
観覧料：無料

メモ：

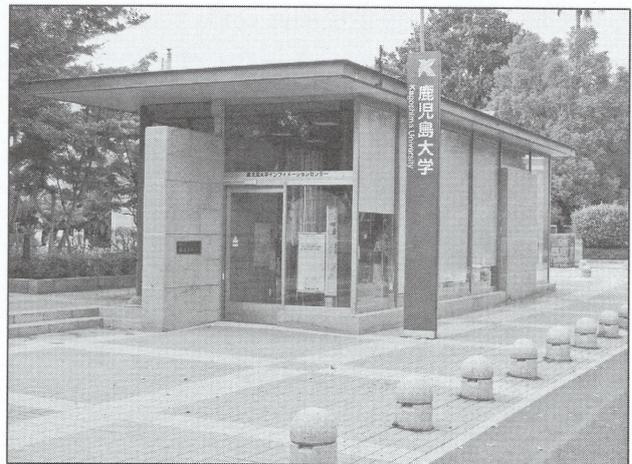
2004年5月開館。建物は1928年に建設されたもの(鹿児島市における鉄筋建築の中ではかなり古い、かつては農学部の書庫だったもの)。カウンターに受付人員常時待機。常勤教員は5人(兼担か?)、非常勤職員数人で運営。一階は考古、事務系文書、教育機器などを展示。なかでも目を引いたのが、戦前の学生が提出したレポートの原本である(20冊ほどあった)。内容は地理に関するものが多かった。ただし、これを含め、文書資料の整理・公開に向けた動きはそれほど進んでいないようである。二階は理学部関係の展示(鉱物、地質系資料など)がある。所蔵目録は比較的完備されており、鉱物資料などは海外からの貸し出し要請もあるとのこと。なお、私大などではもはや普通のことかもしれないが、鹿児島大学は地方国立大学にも関わらず正門脇にインフォメーションセンターを設けているのが印象的だった(ちなみに、博物館はインフォメーションセンターから比較的近い場所にある)。



博物館常設展示室外観



博物館常設展示室の1階



インフォメーションセンター

### ② 熊本大学五高記念館

住所：熊本市黒髪 2-40-1

(熊本大学黒髪キャンパス内)

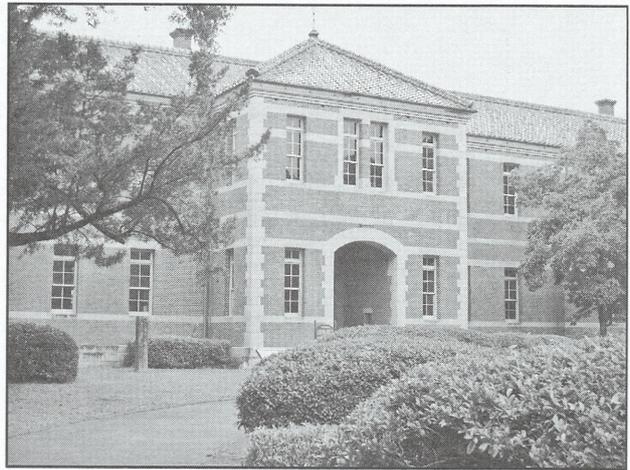
開館時間：10:00～16:00

休館日：毎週火曜日、国民の祝日、年末年始

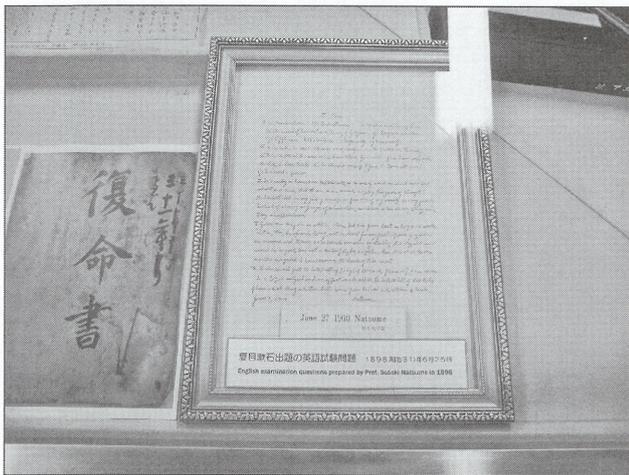
観覧料：無料

メモ：

1993年開館。建物は1889年に建設された旧制五高本館を使用。専任の職員がいるが、訪問当日は日曜日だったため、警備員が対応してくれた。展示室は1階に4部屋、2階に3部屋（うち1部屋は旧制高校時代の教室を復元している）あり、それ以外に休憩室が1部屋ある（展示コースの最後に位置、熊本大学の大学案内や旧制高校関係の資料などが設置されている）。当日は文化祭だったこともあり、学生の父兄や高校生の姿がちらほら見られた。展示内容で特に目を引いたのが、旧制五高で教鞭をとった教師（夏目漱石、小泉八雲など）や卒業生（佐藤栄作、池田隼人など）に関する展示であった。著名な教員・卒業生一覧などは、旧制静高の展示でも採用したほうがよいと思われる。展示ケースには特に盗難防止の措置などは施されていないようであった（監視カメラもない）。所蔵資料の概要については、当日購入した『第五高等学校—熊本大学五高記念館図録』で確認することができるが、すべてを網羅した目録はまだ出ていないようである。なお、校友会雑誌全巻のコピー（劣化のひどい資料については写真を印刷している）は休憩室に設置してあり、自由に閲覧することができる。



記念館外観



夏目漱石出題の試験問題



復元された教室